

## 1

## 日本溶接会議 (JIW)

## 1.1 設立

日本は1952年に国際溶接学会 (IIW) に加盟し、活動を円滑に行うために国内の対応組織として日本溶接会議 (JIW, Japan Welding Institute) が設立された。

その後、日本学術会議がIIWに加盟したため一時廃止され日本学術会議溶接研究連絡委員会の協力機構の立場になった時期もあったが、1966年に日本学術会議から独立し現在に至っている。

## 1.2 事業内容

JIWの事業内容は、以下の通りである。

## (1) IIW対応

- ・日本代表理事の推薦、各委員会日本代表の推挙
- ・年次大会出席に関する事項の処理
- ・関連行事の主催または後援
- ・関係経費の処理

## (2) 海外活動全般

- ・海外情報の収集ならびに活用

- ・我が国の溶接技術および溶接事業に関する海外への紹介

- ・国際協同事業の主催または協力

## (3) 溶接界発展のための事業

- ・溶接学会と日本溶接協会が共同して推進する事業
- ・共同企画委員会において、溶接界に大きなアドバンテージを与える事業テーマを選定

## 1.3 体制

運営は、溶接学会と日本溶接協会が共同で当たっている。溶接界発展に向けたJIWの改組に伴い、2017年4月1日にJIW事務局を溶接学会から日本溶接協会へ移管した。

従来のIIW対応に加え、学協会の共同事業を検

討する組織に変えるもので、JIW理事会は日本溶接協会の理事会構成と同一にした。また、管下にJIW共同企画委員会を設け、溶接学会と当協会からそれぞれ選出された委員で構成した。

## 1.4 活動状況

## (1) IIW対応

JIWでは、IIWの技術委員会と特別委員会に対応する委員会を組織し、IIWの年次大会や中間会議に多くの委員を派遣している。また、JIW事務局では、IIW年次大会における参加者向けの登録作業や日本がスポンサーとなっている「Yoshiaki

Arata Award」の対応を行った。

## (2) 学協会の共同事業に関する検討

学協会の共同事業を検討するため、2017年度よりJIW共同企画委員会を設け、年に4回開催した。以下の4つのテーマに関する活動計画を策定し、その中からすぐに取り組む活動を抽出した。

- ① 人材育成・教育連携
- ③ アウトリーチ活動連携
- ② 新規分野の開拓連携
- ④ 広報連携

